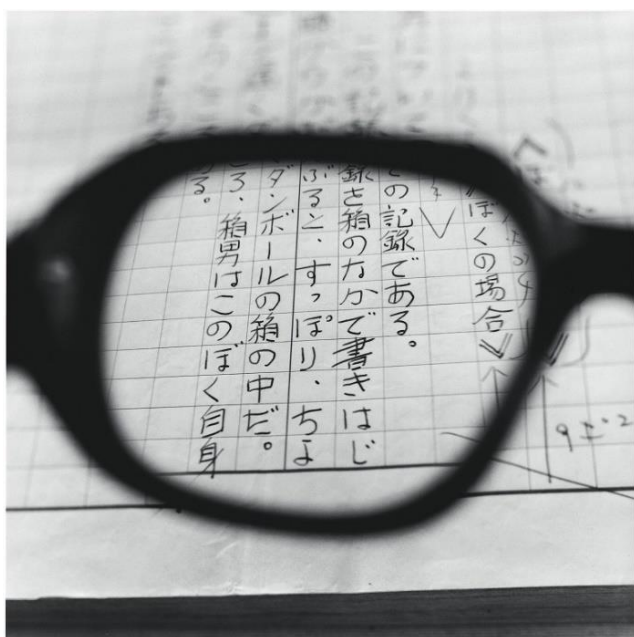


2019/08/13

TOP コレクション イメージを読む 写真の時間

TOP Collection: Reading Images The Time of Photography

2019年8月10日(土) — 11月4日(月・振休)



米田 知子 《安部公房の眼鏡—『箱男』の原稿を見る》
〈Between Visible and Invisible〉より
2013年 東京都写真美術館蔵

展覧会概要

TOP コレクションは東京都写真美術館の収蔵作品を紹介する展覧会です。今年のテーマは「イメージを読む」。作品という視覚的なイメージとその読み解き方を考えます。本展は 35,000 点を超える当館コレクションから選び抜かれた個々の作品や、複数点からなるシリーズ作品をとおして、それぞれが語りかけてくる物語に着目します。作品の背後にある意味やお互いを結びつける関連性を浮き上がらせること、さらに写真というメディア自体が内包している普遍性に目を向けることで、イメージを読むという豊かな鑑賞体験へと観客の皆様を誘います。

「写真の時間」展では、写真が持つ時間性と、それによって呼び起こされる物語的要素に焦点を当ててご紹介するものです。写真とは、一瞬の時間を切り取ったものと捉えられるかもしれませんが。しかしながら、例えば私たちがある写真を目にする際、そのイメージは記憶の奥深くにまで働きかけ、現在だけでなく、過去や未来、はたまた音や匂いといった視覚以外の感覚をも喚起することもあるでしょう。そのようにして、私たちは写真に時間の流れや物語を感じとるのです。この展覧会では、写真と時間、そしてそこに横たわる物語との関係性を、「制作の時間」、「イメージの時間」、「鑑賞の時間」という3つのキーワードによって探ります。「写真の時間」を、どうぞお楽しみください。

出品作家 計 34 作家

伊藤 義彦、内田 九一、川内 倫子、鬼海 弘雄、小島 康敬、佐藤 時啓、杉本 博司、田口 和奈、土田 ヒロミ、東松 照明、中平 卓馬、奈良原 一高、畠山 直哉、濱谷 浩、堀 与兵衛、緑川 洋一、森山 大道、米田 知子、ウジェーヌ・アジェ、ロバート・キャパ、ハリー・キャラハン、ウィリアム・クライン、アウグスト・ザンダー、シンディ・シャーマン、エドワード・スタイケン、W.ユージン・スミス、エドゥアール＝ドニ・バルデュス、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、フェリーチェ・ベアト、ドゥエイン・マイケルズ、シャルル・マルヴィル、ジョナス・メカス、エドワード・ルシェ、NASA

出品点数 110 点

展示構成

- 第 1 章 制作の時間
- 第 2 章 イメージの時間
- 第 3 章 鑑賞の時間



緑川 洋一《ほたるの乱舞》〈瀬戸内海とその周辺〉より
1957年 ゼラチン・シルバー・プリント

展示構成／主な出品作品

第 1 章 制作の時間

》》 写真のイメージがつくられるまでの時間をみてみよう

写真撮影という行為は一定の時間を要します。

写真技術の進歩によって、画像が生成されるまでの時間は短くなりましたが、まったく時間を要しないわけではありません。例えば、写真独特の「ブレ」という現象は、光を取り込むためにカメラのシャッターが開いている間（露光）に、被写体が動くことで生じます。

19世紀半ばに制作されたエドゥアール＝ドニ・バルデュスによる建物を写した作品は、撮影中に何者かが動いたことによって、画面の手前が「ブレ」となってあらわれています。

本章では、写真のイメージがつくられるまでの時間経過を読み取ることができる一例として、「ブレ」を写真表現とした作例や、長時間露光を用いることで、光の軌道が可視化された作例など、人の目では感知することができない、カメラという機械ならではの表現を生かした作品を紹介します。



1-1



1-2



1-3*



1-4



1-5*



1-6

1-1 エドゥアール=ドニ・バルデュス 《パレ・ロワイヤル》1850-59年頃 単塩紙

1-2 堀 与兵衛 ^{ただよしあきら} 《多田吉甄像》1868年 アンプロタイプ

1-3 アンリ・カルティエ=ブレッソン 《サン・ラザール駅裏、パリ》1932年 ゼラチン・シルバー・プリント

© Henri Cartier-Bresson / Magnum Photos ※参考図版

1-4 佐藤 時啓 《CC #35》〈Breath-graph〉より 1992年 銀色素漂白方式印画

1-5 ロバート・キャパ 《オマハ・ビーチ、コルヴィユ=シュル=メール付近、ノルマンディー海岸、1944年6月6日、Dデイに上陸するアメリカ軍》1944年 ゼラチン・シルバー・プリント

© Robert Capa / International Center of Photography / Magnum Photos ※参考図版

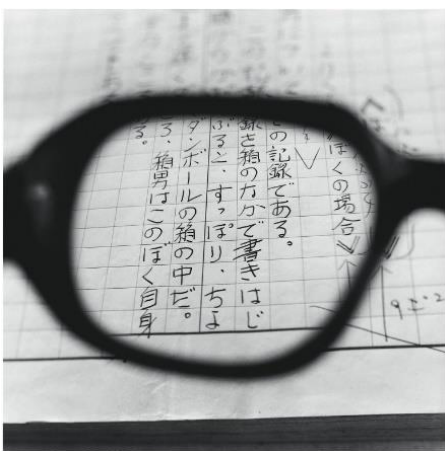
1-6 田口 和奈 《あなたを待っている細長い私》2007年 ゼラチン・シルバー・プリント

第2章イメージの時間

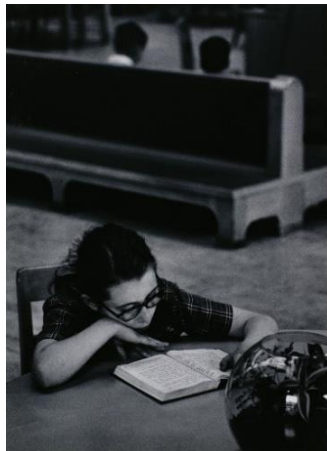
》》画面のなかに凝縮された時間を想像してみよう

米田知子は、20世紀の著名な知識人が実際に使っていた眼鏡を通して、彼らに関連するテキストなどを覗き見るシリーズを制作しました。本作は、眼鏡の持ち主である彼らが過ごした時間を、鑑賞者に想起させるように促します。また、ポートレイトの名手である、鬼海弘雄の作品には、被写体に、その人がこれまで生きてきた年輪のように積み重なった時間と作家が被写体と関係性を育む時間が作品に蓄積されています。さまざまな芸術表現のなかでも、写真は被写体（人、もの、場所）が内包する時間や記憶を、ひとつのイメージとして切り取ることができるメディアだといえるでしょう。

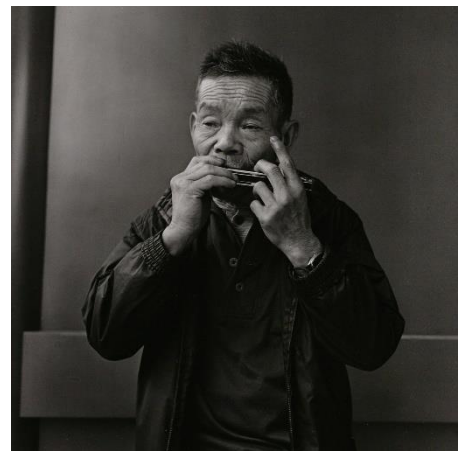
本章では、被写体に時間が凝縮された作品や、鑑賞者に時間の感覚を喚起させる作品に注目します。



2-1



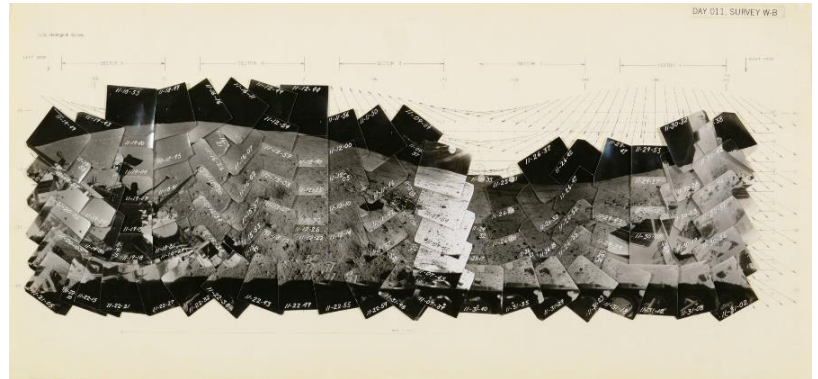
2-2



2-3



2-4



2-5

2-1 米田 知子 《安部公房の眼鏡—『箱男』の原稿を見る》〈Between Visible and Invisible〉より

2013年 ゼラチン・シルバー・プリント

2-2 W. ユージン・スミス 《読書をする少女》〈ピッツバーグ〉より 1955-56年 ゼラチン・シルバー・プリント

© 2019 The Heirs of W.Eugene Smith/PPS ※参考図版

2-3 鬼海 弘雄 《ハーモニカを吹く男》〈王たちの肖像〉より 1986年 ゼラチン・シルバー・プリント

2-4 杉本 博司 《U. A. プレイハウス、ニューヨーク》〈劇場〉より 1978年 ゼラチン・シルバー・プリント

© Hiroshi Sugimoto / Courtesy of Gallery Koyanagi

2-5 NASA 《月面の影》 1966-68年 ゼラチン・シルバー・プリント

第3章 鑑賞の時間

》》 展示室で時間の流れを体感してみよう

私たちは美術館で、作品を鑑賞するとき、展示室内で歩いたり、立ち止まったりを繰り返します。第3章では、鑑賞という体験の時間に焦点を当ててご紹介します。例えば、ある道沿いのすべての建物を記録したエドワード・ルシェの7メートルもの長大なアーティストブック。この作品を視線と身体を移動させながら見るとき、鑑賞者は作家がどのように移動しながら撮影したのかを追体験することになります。また、川内倫子の作品は、1点ずつでは何を写そうとしたのかを読み取りづらいかもかもしれません。これらは、明確な順序や物語によって貫かれたものではありませんが、展示空間にひろがるいくつものイメージのなかを彷徨いながら鑑賞するとき、私たちは、想像のなかで関連性をみつけたり、自分自身の記憶を遡るなどして、時間の流れを感じることがあります。静止した画であるはずの写真は、鑑賞者のなかでそれぞれの時間が動き出します。これこそが写真鑑賞の醍醐味といえるでしょう。



3-1



3-2



3-3



3-4



3-5

3-1、3-2 川内 倫子 〈Illuminance〉より 2009年 発色現像方式印画

3-3 川内 倫子 〈Iridescence〉より 2009年 発色現像方式印画

3-4 エドワード・ルシェ 《サンセット・ストリップのすべての建物》1966年
書籍 ©Ed Ruscha

3-5 ジョナス・メカス 《写真を撮るウーナ、1977年、「いまだ失われざる楽園
あるいはウーナ3歳の年」より》

〈静止した映画フィルム〉より 1977年 銀色素漂白方式印画

© Jonas Mekas

関連イベント

サマーナイトミュージアム特別企画 対話型作品鑑賞会

2019年8月23日(金) 18:00-

参加者で対話を交えながら作品を鑑賞します。※作品解説ではありません。

本展チケット（当日消印）をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

2019年9月1日(日) および10月13日(日) 各日 10:30-13:00

障害の有無にかかわらず、多様な背景を持つ人が集まり、展示室で言葉を交わしながら一緒に美術を鑑賞するワークショップです。

講師：視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

対象：どなたでも 定員：各日7名 事前申込制、応募多数の場合は抽選

会場：3階展示室、スタジオ

参加費：500円（別途本展チケットが必要です） ※詳細は当館ホームページをご覧ください。

クロマキーランド

2019年9月14日(土) 14:00-17:00

「クロマキー合成」によって、実際にはそこにはない背景と人物を組み合わせたユニークな記念写真を撮影します。

対象：どなたでもご参加いただけます 参加費：無料 事前申込不要

会場：スタジオ

じっくり見たり、つくったりしよう！

2019年11月2日(土) 10:30-12:30

写真にまつわる制作を体験したり、展示室で作品について楽しく話し合ったり、一度にさまざまな体験ができるプログラムです。

対象：小学生とその保護者（2人1組） 定員：10組

事前申込制、先着順

会場：3階展示室、スタジオ

参加費：800円（別途本展チケットが必要です）

※ 作品解説ではありません ※ 詳細は当館ホームページをご覧ください。



撮影：川瀬一絵（ゆかい）

担当学芸員によるギャラリートーク

会期中の第1、第3金曜日 16:00より、担当学芸員による展示解説を行います。

展覧会チケット（当日消印）をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

手話通訳つきギャラリートーク

2019年9月6日(金)、10月4日(金)、11月1日(金)の各日16:00より、担当学芸員によるギャラリートークを手話通訳つきで行います。展覧会チケット(当日消印)をご持参のうえ、3階展示室入口にお集まりください。

事業はやむを得ない事情で変更することがございます。



展覧会図録

「TOP コレクション イメージを読む 写真の時間」

テキスト：榎田言葉(当館学芸員)、編集・発行：東京都写真美術館
全200頁、B5変型、価格2,100円(税抜)

開催概要

主催 東京都 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛 凸版印刷株式会社

会場 東京都写真美術館 3階展示室

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel 03-3280-0099 URL www.topmuseum.jp

開館時間 10:00~18:00(木・金は20:00まで)、ただし、8月15日(木)~8月30日(金)の木・金は21:00まで開館。入館は閉館30分前まで

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日休館)

観覧料 一般 500(400)円/学生 400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円

※()は20名以上団体、小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料、第3水曜日は65歳以上無料 ※8月15日(木)~8月30日(金)の木・金17:00-21:00はサマーナイトミュージアム割引(学生・中高生無料、一般・65歳以上は団体料金) ※9月16日(月・祝)敬老の日は65歳以上無料 ※10月1日(火)は都内在住の方は無料 ※各種割引の併用はできません。

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。

掲載をご希望の際は、広報担当までご連絡ください。

* 図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。

* 図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

* 「参考図版」として掲載している1-3、1-5、2-2は、著作権管理団体の規定により別途掲載料が発生いたします。広報担当者へご相談ください。

東京都写真美術館

TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

〒153-0062 東京都目黒区三田 1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 東京都写真美術館

1-13-3 Mita, Meguro-ku, 153-0062, Tokyo, Japan

Tel 03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 www.topmuseum.jp

展覧会担当 榊田言葉 kotoha.masuda@topmuseum.jp

広報担当 久代明子 平澤綾乃 岡田なつき press-info@topmuseum.jp